

北九州地区小児科医会会報

(2018年1月号)

発行:北九州小児科医会(元気な子どもたち)

HP: <http://www.genki-kitakyu-ped.com>

会員フォーラム: forum.kitakyu-ped.jp

E-mail: jimukyoku@kitakyu-ped.jp

事務局:大原小児科医院内

福岡県北九州市戸畑区千防1-11-20

北九州地区小児科医会のご案内

第54回北九州地区小児科医会定期総会

日時 2018年1月21日(日) 13:30~

場所 リーガロイヤルホテル小倉

講演:「日本の医学教育はどう変化しているのか」

演者:福岡大学医学部医学教育推進講座

教授 安元 佐和 先生

受付は13:00から開始します。

特別講演は13:30から開始します。

総会は14:40から開始します。

第543回北九州地区小児科医会2月例会

日時 2018年2月15日(木) 19:00~

場所 小倉医師会館 講堂

講演:「日本の小児科医のこれから

~日本小児科学会の経験~」

演者:聖路加国際大学・聖路加国際病院

臨床准教授(大学院)

小児総合医療センター小児科 医幹

遺伝診療部(兼任) 島袋 林秀 先生

1月産業医科大学小児科クリニカルカンファランス

日時:2017年1月15日(月) 19:00~

場所:産業医科大学大学2号館2階 2208教室

演題:全身性若年性特発性関節炎(sJIA)の診断と治療

演者:産業医科大学小児科

白山 理恵 先生 押田 康一 先生 渡邊 俊介 先生

1月産業医科大学小児科セミナー

日時:2017年1月18日(木) 19:00~

場所:産業医科大学大学2号館2階 2201教室

演題:気管支喘息の診断と治療

演者:産業医科大学呼吸器内科学

教授 矢寺 和博 先生

2月産業医科大学小児科クリニカルカンファランス

日時:2017年2月5日(月) 19:00~

場所:産業医科大学大学2号館2階 2201教室

演題:膜性増殖性糸球体腎炎I型の9歳女児例

演者:産業医科大学小児科

森下 高弘先生 斉宮 真理先生

2月産業医科大学小児科セミナー

日時:2017年2月22日(木) 19:00~

場所:産業医科大学大学2号館2階 2208教室

演題:大学院4年間の基礎研究を通して学んだこと

演者:産業医科大学小児科

齋藤 玲子 先生

その他の講演会等のご案内

第408回小倉小児科医会臨床懇話会

日時:2018年1月25日(木) 19:00~

場所:国立病院機構小倉医療センター

地域医療研修センター

演題1:繰り返す肺炎を契機に成人期に発見

された嚢胞性肺線維症の一例

演者:北九州総合病院小児科 川村 卓 先生

演題2:細気管支炎を契機に発見された嚢胞性

線維症の一例

演者:北九州総合病院小児科 川瀬 真弓 先生

平成29年度予防接種研修会

日時:2018年1月23日(火) 19:00~

場所:市立商工貿易会館 2階 多目的ホール

演題:渡航者向け予防接種と渡航外来について

健和会大手町病院 感染症内科

主任部長 林 健一 先生

第3回多職種で考える発達障害と療育研究会

(第13回発達障害勉強会)

日時:平成30年2月16日(金) 19:00~20:30

場所:北九州市立商工貿易会館 2回多目的ホール

講演:「ペアレントトレーニングの保育・教育

・医療現場での活用について」

講師:福岡県立大学

社会人間学部教授教授 福田 恭介 先生

協議事項：

1. 北九州地区小児科医会総会

平成30年第54回北九州地区小児科医会総会準備についての進捗状況等の確認をしました。

ご案内させていただいたとおり、1月21日に行われます。受付開始13:00開始、特別講演：13:30開始、総会：14:40開始、懇親会：16:00開始です。

1月4日時点で総会出席者84名、懇親会出席者は62名の予定です。

報告事項：

1. 学術報告：神園淳司

今後の講演会の予定です。

2月のご案内の通り、小児科学会将来小児科医を考える委員会、聖路加病院 島袋先生に2016年の将来小児科医への提言などを出されているので、それについてお話してもらう予定です。

3月は小児神経懇話会合同の予定です。

4月はアレルギー懇話会合同の予定です。

5月は子どものこころ懇話会合同の予定です。

6月は感染症懇話会合同の予定です。

2. 発達障害・療育対策委員会

H29年度「第3回多職種で考える発達障害と療育研究会」講演会（第13回発達障害勉強会）

の日程は以下のように決定しました。

日時：平成30年年2月16日(金)19:00～20:30

場所：北九州市立商工貿易会館 2回多目的ホール

講演：「ペアレントトレーニングの保育・教育・医療現場での活用について」

講師：福岡県立大学

社会人間学部教授教授 福田恭介先生

※参加費は無料で、申込みも不要です。

3. ペリネイタルビジット委員会報告：西村慎太郎

先生方のご協力のおかげで平成28年10月からペリネイタルビジット事業が公費化されました。遅くなりましたが、これまでの実績を提示させていただきます。地域間格差は依然残っていますが、症例数は増加傾向です。これまで同様、ご協力をよろしく申し上げます。

平成28年度
出産前後小児保健指導（ペリネイタルビジット）
事業実績（H28.10月～H29.3月）

紹介件数	指導件数
389	230

平成29年度
出産前後小児保健指導（ペリネイタルビジット）
事業実績（H29.4月～H29.10月）

紹介件数	指導件数
518	411

(1) 紹介を受けた妊産婦数

門司	小倉北	小倉南	若松	八幡東	八幡西	戸畑	合計
60	132	122	11	16	36	12	389

(1) 紹介を受けた妊産婦数

門司	小倉北	小倉南	若松	八幡東	八幡西	戸畑	合計
69	200	162	12	14	37	24	518

(2) 指導を受けた妊産婦数

門司	小倉北	小倉南	若松	八幡東	八幡西	戸畑	合計
46	74	81	4	9	9	7	230

(2) 指導を受けた妊産婦数

門司	小倉北	小倉南	若松	八幡東	八幡西	戸畑	合計
52	156	138	8	17	17	23	411

超音波検査 (D215) :
断層撮影法「胸腹部、その他」、パルスドプラ法など

超音波検査は非侵襲的に繰り返し行うことができ、小児においても極めて有用な画像診断法です。超音波検査を日常的に駆使することは早期の診断や見落としを防ぐ手段としても有効ですが、一方で保険診療に際しては一定の取り決めがあります。今回、超音波検査の算定方法や適応となる疾患・病状について再確認したいと思います (H21年3月保険診療メモ参照)。

1. 算定方法

断層撮影法「胸腹部またはその他」と「心臓超音波検査」の2つの検査法について述べます。同一日に「胸腹部またはその他」と「心臓超音波」を実施した場合は、それぞれ算定できます。「胸腹部」と「その他」を実施した場合は、別部位ですが同一の検査法とみなしますので主たるもので算定します。なお、パルスドプラ法を加算した場合は点数の高い方で算定します。

別日 (同一月) または同一日で別時間帯 (同日再診など) に「胸腹部またはその他」と「心臓超音波」を実施した場合、上記と同様にそれぞれ算定できます。

「胸腹部またはその他」あるいは「心臓超音波」を2回以上実施した場合、2回目以降の所定点数は90/100に逡減されます。「胸腹部」と「その他」を実施した場合も、2回目以降は90/100に逡減されます。また、同一日で複数の診療科を受診した場合、他科での実施については同一日別時間帯の扱いとして認められます。

また、診断を確定するために同一日に反復して検査を実施しても、危急な場合を除いて1回の算定しか認められません。別日に反復検査を行った場合も必ずしも適正とみなされない場合がありますので、疾患・病状を勘案した上で算定をお願いします。再検が必要となった理由を備考欄にコメントした方が丁寧です。

2. 断層撮影法「胸腹部またはその他」

臨床症状・所見や血液検査などにより容易に診断される疾患は適応とならず、原則として形態に異常を認める疾患 (疑いも含む) が適応となります。診断以外にも鑑別診断、重症度や合併症の評価、診断確定後の経過観察は医学的な判断により認められます。

以下、本法による疾患の適否について、具体的にいくつかを例示します。

腸炎の病名では、腹痛、嘔吐、血便などの症状があっても算定は認められません。鑑別を念頭に本法を実施した場合は、具体的に虫垂炎、腸重積などの病名 (疑

いを含む) の記載が求められます。腸間膜リンパ節炎は、例えば虫垂炎を疑って本法を行い、結果的に腸間膜リンパ節炎と診断された場合は認められます。イレウスや急性腹症は原則として腸回転異常症などの原因となる病名やコメントの記載が望まれます。また原因となる病名があっても、本法の実施のみで腹部し線などがなく、かつ傾向的であれば査定の対象になることもあります。

腎炎や肝炎も、鑑別として水腎症や腎奇形、肝腫瘍や腫瘍 (疑いも含む) などの病名が求められます。脾炎は原則認められますが、鑑別診断、重症度や合併症などの記載が望まれます。

副鼻腔炎は、専門医のいる医療機関は別としてそれ以外の医療機関では必要性は認められません。また副鼻腔が未発達のため、し線と同様に2歳以下では適応になりません。

頸部リンパ節炎、流行性耳下腺炎または反復性耳下腺炎は認められますが、これらの疾患に対する本法の実施は傾向的にならないように注意して下さい。

鼠径ヘルニアの診断の際は「その他」ですが、嵌頓の場合は「胸腹部」で算定できます。

3. 心臓超音波検査 (H29年7月保険診療メモ参照)

4. パルスドプラ法加算

心臓超音波検査以外の断層撮影法を実施し、血管の血流診断を目的としてパルスドプラ法を行った場合に加算が認められます。疑い病名では認められず、算定は1日につき1回になります。小児では精巣 (精索) 捻転、鼠径ヘルニア嵌頓、絞扼性イレウス、肝・腎移植後の血行再建の評価など、診断の精度向上や治療方針に不可欠な場合に適応となります。虫垂炎や胆石症などの病名では適応となりません。

5. その他の特殊手技

残尿測定検査は月2回 (2回目も100/100で算定) までに限り算定できます。超音波法による骨塩定量検査 (算定は4月に1回) などがあります。

(福岡県小児科審査員連絡会)